

香川県農業・農村基本計画(素案)に対する審議会委員の御意見と考え方【第2回審議会(書面開催)】

No.	素案の項目 (ページ番号)	御意見	県の考え方・対応(案)	担当課
1	施策体系 (p.26,27)	<ul style="list-style-type: none"> • 施策体系はよくわかります。方向Ⅰと方向Ⅴは、いかに縦割り・横割りなく展開できるかが必要かと思えます。 • 方向Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは、連携した展開が重要かと思えます。もう少し優先順位を明確にした方が良いでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 農業を支える基本であります「人と農地」に関する施策として、「Ⅰ 担い手の確保・育成」と「Ⅳ 生産性を高める基盤整備」を一体的に捉えるとともに、新たに、「入口と出口」の関係にある「Ⅲ 農産物の安定供給」と「Ⅳ 農産物の需要拡大」に整理し、ⅠからⅣまでの農業の成長産業化を目指す「産業政策」と、「Ⅴ 活力あふれる農村の振興」による「地域政策」を車の両輪として各施策を推進したいと考えております。 	農政課
2	新規就農者等の確保 (p.29,30)	<ul style="list-style-type: none"> • オンライン等を活用した就農相談会や先進的な農業経営体との交流、体験などの機会充実のところ、すべて良いと思いましたが、特にオンライン化を充実させていったらと思いました。 • 農業大学校や農業高校の学生・生徒を対象とした就農促進に期待しています。 • 農業大学校は農業を職業として選択している学生が多いので、県が力を入れて卒業後の進路を見据え、法人等と連携した就農へ向けた教育や研修が充実する事が出来ればと、大変嬉しく思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、これまで対面で行ってきた就農相談会をオンラインで開催しております。アフターコロナにおいても、オンラインのメリットを生かし、特に他県からの就農希望者などに対する就農相談の手法として取り組んでまいります。 • 農業大学校や農業高校、農業法人等と連携して、先進農家での研修や意見交換、就農相談会を開催し、学生や生徒の就農を促進してまいります。 	農業経営課
3	新品種・新技術の開発 (p.44)	<ul style="list-style-type: none"> • 遺伝子診断技術により必要とする優良な形質を早期に評価し、品種育成の効率化を図るとありますが、遺伝子組み換えやゲノム編集をした農畜産物を作り出すことですか？生産の効率化や低コスト化は大切ですが、遺伝子操作には慎重に取り組んでいただきたいです。流行りの様に遺伝子操作が行われることに恐怖を感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> • 記載の「遺伝子診断技術」については、遺伝子組み換えやゲノム編集を行った農産物を作成するものではなく、一般的な交配による交雑育種において、優良な形質に関連する特定の遺伝子の有無を早期に遺伝子レベルで診断するものです。今回いただいた御意見につきましては、今後の技術開発の参考とさせていただきます。 	農業経営課
4	環境に配慮した農業の推進 (p.48,49)	<ul style="list-style-type: none"> • 私は化学物質過敏症を発症したことで、食や環境に関する意識が変わりました。日本は農薬を多く使う国といわれています。これからは食の安全・安心や環境への負荷を低減した農業にシフト変更することが重要と感じています。有機農法、自然農法に取り組む農業者を増やし、その支援に力を入れていただきたいと思えます。その農法こそがブランドになるのではないかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> • 環境に配慮した農業については、環境保全型農業直接支払支援事業による支援や、環境にやさしい農業を実践する「エコファーマー」の計画認定などを中心に推進しているところです。今後とも、本計画に基づき、関連施策の充実強化に努め、消費者ニーズを踏まえた有機農業等の環境に配慮した農業の支援に努めてまいります。 	農業経営課

No.	素案の項目 (ページ番号)	御意見	県の考え方・対応(案)	担当課
		ます。		
5	地産地消の推進 (p.58,59)	<ul style="list-style-type: none"> 「消費者と食と農とのつながり……旬の農産物の情報発信や、飲食店や学校給食での県産農産物の利用促進など……」とありますが、学校給食に加えて、高校や大学の食堂、病院、企業の食堂など県内の特定給食施設(給食施設)全般に県産農産物の利用促進を進めていくよう記載されると、さらに地産地消の推進になると思います。 「産直施設や……摂取量増加を目指して積極的にPRします。」とありますが、香川県栄養士会や食生活推進委員の方たちが作成している野菜の簡単なレシピの紹介(栄養成分表示含)を加えていただきたいと思います。また、地産地消の推進に若い世代をターゲットにすることも強調し、たとえば、スマホを使って簡単に香川県産食材を使ったメニューのレシピ検索ができる仕組みを考えてはどうでしょうか。近くの産直に食材を買いに行くと若い夫婦や親子をよく見かけます。若い世代からは料理法がわからない、面倒であるという声をよく聞きますが、一方で、産直等で食材を購入し、調理することがファッションのような感覚で若い世代に広がるのが期待できます。たとえば、「なす」と検索するとポータルサイト「讃岐の食」やレシピ紹介のサイトに簡単にたどりつくような仕組みを作れば、若い人たちが地産地消に興味を持ち、県内農産物の利用促進につながると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の社員食堂や学校・社会福祉施設の給食施設等において、県産農畜水産物等の利用促進に先導的に取り組んでいただく「かがわ地産地消応援事業所」の登録を推進することで、地産地消の推進を図ってまいりたいと考えております。(59 ページ) 「レシピの紹介(栄養成分表示含)」につきましては、具体的な施策の「①食や農に対する理解促進」の中で、「県民の健康づくりを支援するため、県産農産物を活用し、かつ栄養バランスにも配慮したレシピの提案・普及等に努める」と記載しており、栄養士会等の御了解が得られれば、御提案の方向で検討いたします。 ポータルサイト「讃岐の食」やレシピ紹介のサイトに簡単にたどりつくような仕組みづくりについても、具体的な方法を検討いたします。 	農政課
6	多面的機能の維持 (p.74)	<ul style="list-style-type: none"> 農業者の高齢化や後継者不足で耕作放棄地が増え、里山が荒れ放題になってきており、対策は急がないといけないと思います。 「集落全体の将来像を明らかにする取組みや、新たな人材を確保する取組みなどを促進し、活動内容の強化を図る」に期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘のとおり、耕作放棄地の増加を抑える対策については急ぐ必要があると考えおり、地域が協働で行う、農地や農業用施設の維持管理活動を支援する多面的機能支払制度等の活用は有効な対策であると考えています。このため、引き続きこれらの制度を推進し、取組面積の拡大を図り、農地の保全に努めてまいります。 御指摘の集落全体の将来像を明らかにする取組みについては、中山間地域等直接支払制度の中で集落が行っているものですが、現在はあまり進んでいない状況(本制度に取り組む集落のうち約 1/3 の集落が上記取組みを実施)です。このため、新たな人材を確保する取組み等と併せて本取組みを促進し、活動内容の強化を図ってまいります。 	農村整備課

No.	素案の項目 (ページ番号)	御意見	県の考え方・対応(案)	担当課
7	農村の活性化 (p.75,76)	<ul style="list-style-type: none"> 「新しい人の流れ」は、とても良い素案だと思います。何を展開したらいいか、何かを実施するのも人材がいないと成り立たないので、重要性が高いと感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘のとおり、農村の活性化には人材の確保が重要と考えており、田園回帰志向の高まりを受け、現在行っている農泊、グリーン・ツーリズムの推進による交流人口の拡大に加え、交流人口から関係人口、定住人口への流れが図れるよう、施策を進めてまいりたいと考えています。 	農村整備課
8	農村の活性化 (p.75,76)	<ul style="list-style-type: none"> 県下で頑張っている移住者との交流会を行うなど、発信することで、新たな移住につながるのではないのでしょうか。また、地域での移住者の方のサポート体制も大切かと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 本計画では、これまでの交流人口に加え、関係人口の創出や移住・定住の促進を図ることとしており、移住・定住に繋げるため、御提案の移住者との交流会開催や、受入れ地域の移住者に対するサポート体制の整備などの取組みについて、具体的な施策の参考とさせていただきます。 	農村整備課
9	全体	<ul style="list-style-type: none"> 「農業の振興」がウィズコロナ、ポストコロナの感染症に負けない社会の創造にも必要不可欠と確信しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、家庭需要が増加し、国産農産物の生産拡大が期待されていることや、田園回帰志向の高まりから、暮らしや働く場所として農業・農村の価値や魅力が再認識されていることをチャンスと捉えて、新しい生活様式にも対応しながら、本県農業の持続的な振興に努めてまいります。 	農政課
10	全体	<ul style="list-style-type: none"> 前回前任より申し上げたコメントにつきまして反映していただき感謝申し上げます。今後とも、貴基本計画に記載の各種農業施策につきまして、一層、連携を強化していただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済のグローバル化やデジタル化社会の進展、脱炭素化の流れやコロナによる影響など、農業・農村を取り巻く環境が大きく変化する中、国との連携を密接に図りながら、各種農業施策を推進してまいります。 	農政課
11	全体	<ul style="list-style-type: none"> 農業協同組合と JA の表記があるため、JA で統一すればどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘のとおり、JA に統一いたします。 	農政課